

# 令和元年度事業報告

I 令和元年度事業報告の概要

II 管理部門事業報告

III 事業報告

ベジタボーラ

もりときマーケット

ようこそ森と木ラボ

地域活動支援センターカフェハクナマタタ

もりときピコ

デイセンター風の森

モーリー農場

もりすけ

森と木 LIFE

地域生活相談室ベターデイズ

森と木 365

コミュニティケアセンター森と木 365

こども発達支援センターBee

エンパワメントセンターワズハウス

グリーンハイツ稲田

こどもの自立生活館茜舎

ワズハウス

自立サポート森と木

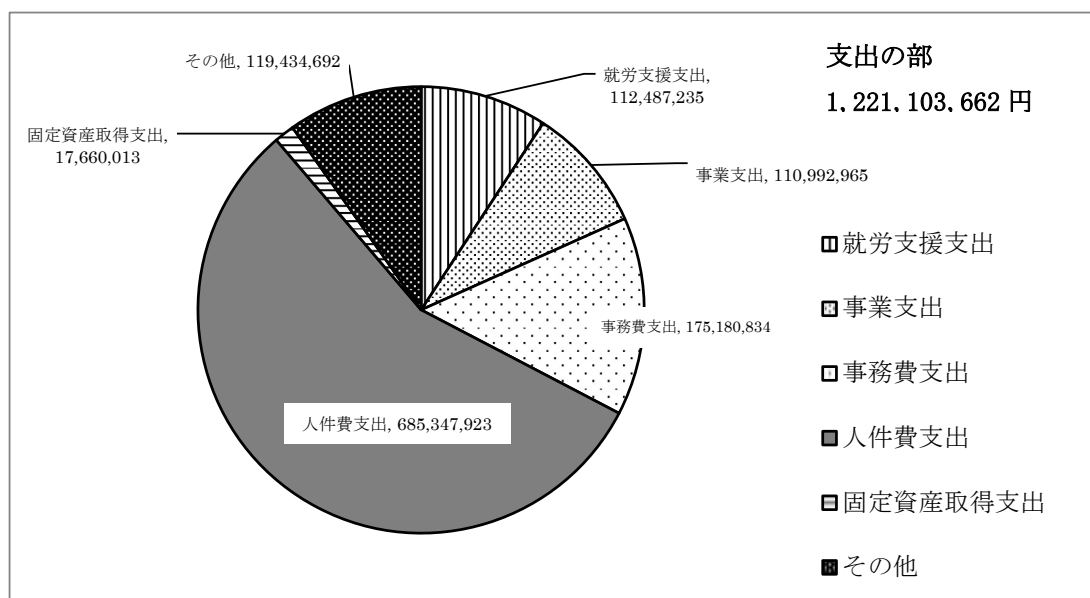
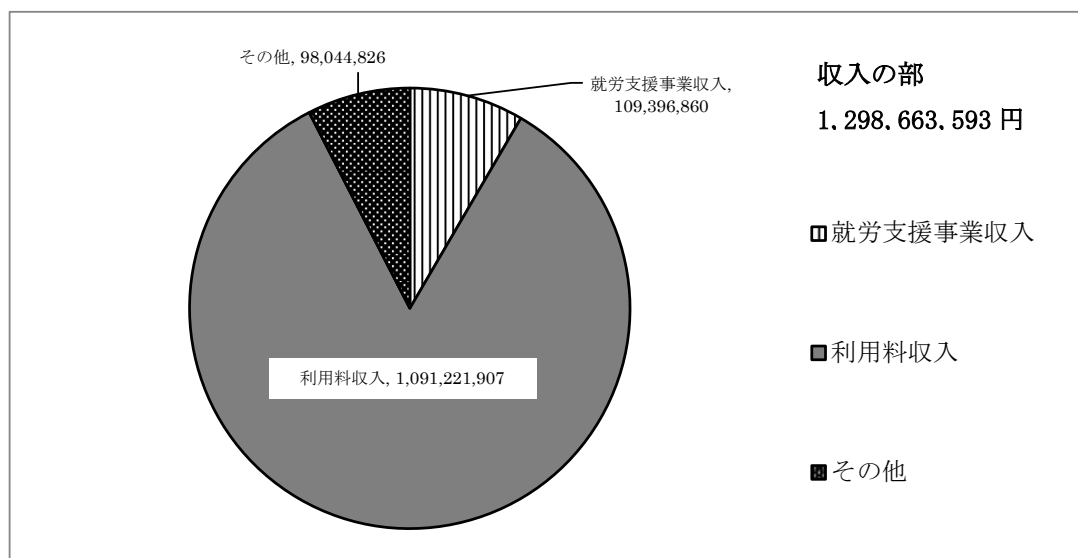
# I. 令和元年度事業の概要

## 1. 総括

令和元年10月に発生した台風19号は長野県東北信地方で千曲川の堤防決壊など河川の氾濫により広い地域に甚大な被害を及ぼした。当法人の利用者や職員の中にも住宅への浸水により大きな被害を受けた方もいた。被害発生当初から被災した利用者家族と連絡を取り合い、森と木365での短期入所での受け入れを進めた。被災した職員に対しても被害を受けた住宅の片付けや生活再建の募金活動なども行い支援した。年度末には新型コロナウイルス感染拡大の影響で学校が休校になり放課後等デイサービスを中心として大幅なサービス提供時間の変更を余儀なくされ、各事業所において新型コロナウイルス感染拡大防止の対応に取り組んだ。

災害やウイルス感染など、法人設立以来経験したことのないような状況の中での事業遂行であったが、非常時において職員一人ひとりが使命感をもって利用者及びご家族の支援に当たられたことや、そのような状況の中でも年間を通して健全な運営が維持できたことは、今後の法人運営にとって大きな安心材料となった。

## 2. 決算の状況 ※令和元年度の資金収支状況



## Ⅱ. 管理部門事業報告

### 令和元年度 法人本部

#### 1. 令和元年度 理事会、評議員会、内部監査等

令和元年度の事業計画に基づき、予算執行の協議・検討を行い、安定かつ効果的な法人運営に努めた。

##### (1) 開催内容

	日時	審議内容	審議結果
内部監査	令和元年5月10日(金) 午後1時30分より	平成30年度事業・決算・利用者金銭管理監査	承認
第1回理事会	令和元年5月25日(土) 午後3時30分より	第1号議案 平成30年度事業報告書(案)について 第2号議案 平成30年度決算書報告(案)について 第3号議案 諸規定の改定について 第4号議案 第10期理事・監事候補者推薦(案)について	第1号議案:全会一致承認 第2号議案:全会一致承認 第3号議案:全会一致承認 第4号議案:全会一致承認
第1回評議員会	令和元年6月15日(土) 午後3時00分より	第1号議案 平成30年度事業報告書(案)について 第2号議案 平成30年度決算書報告(案)について 第3号議案 第10期理事・監事選任(案)について	第1号議案:全会一致承認 第2号議案:全会一致承認 第3号議案:全会一致承認
第2回理事会	令和元年6月15日(土) 午後4時30分より	第1号議案 理事長と専務理事の選定(案)について	第1号議案:全会一致承認
第3回理事会	令和元年11月27日(水) 午後6時30分より	第1号議案 令和元年度補正予算書(案)について 第2号議案 諸規定の改定について	第1号議案:全会一致承認 第2号議案:全会一致承認
役員懇談会	開催中止	—	—
第4回理事会	令和2年3月7日(土) 午後1時30分より	第1号議案 令和2年度事業計画(案)について 第2号議案 令和2年度予算書(案)について 第3号議案 令和元年度補正予算書(案)について	第1号議案:全会一致承認 第2号議案:全会一致承認 第3号議案:全会一致承認

##### (2) 理事、評議員、評議員選任・解任委員出欠状況

	日時	出席者	欠席者
内部監査	令和元年5月10日(金) 午後1時30分より	大池ひろ子・高坂亀美雄 白井千尋・岸田隆・奥村和枝	無
第1回理事会	令和元年5月25日(土) 午後3時30分より	白井千尋・田中宗史・仁科研二・増田修史 岸田隆・奥村和枝・大池ひろ子	高坂亀美雄
第1回評議員会	令和元年6月15日(土) 午後3時00分より	岡野さゆり・金澤敦志・寺澤小百合・寺沢博文 樋口清志・山本恭子・白井千尋・岸田隆 奥村和枝・大池ひろ子	武田るい子・高坂亀美雄

第2回 理事会	令和元年6月15日(土) 午後4時45分より	白井千尋・田中宗史・仁科研二・増田修史 岸田隆・奥村和枝・大池ひろ子	高坂亀美雄
第3回 理事会	令和元年11月27日(水) 午後6時30分より	白井千尋・仁科研二・増田修史・岸田隆 奥村和枝	田中宗史・大池ひろ子 高坂亀美雄
第4回 理事会	令和2年3月7日(土) 午後1時30分より	白井千尋・田中宗史・仁科研二・増田修史 岸田隆・奥村和枝・大池ひろ子	高坂亀美雄

## 2. 職員がいきいきと働き続けるための補助事業

職員がいきいきと働き続けるための補助事業を活用し、研修参加や資格取得、関係書籍等を購入し職務の専門性を高めることができた。

研修内容・支給金額・利用人数

研修内容	支給金額	のべ利用人数
書籍購入費(関係書籍等45冊)	71,758円	13人
資格取得費	113,080円	3人
研修参加費	0円	0人
合計	184,838円	16人

## 3. 職員が法人理念を共有するための補助事業

職員が法人理念を共有するための補助事業を活用し、上司が部下の日頃の思いに耳を傾け部下が上司の理念や仕事に対する考えを学んだりするためのコミュニケーションの場を設けることにより若い職員の資質向上や職員間の法人理念の共有を深めることができた。

開催回数・支給金額

開催回数	支給金額
7回	317,100円

## 4. 新規職員採用試験

令和元年度新規職員採用試験実施状況

### (1) 試験日時等

日時 第1回 令和元年 8月 1日(木)  
第2回 令和元年 8月 31日(土)  
第3回 令和元年 10月 26日(土)  
第4回 令和元年 12月 6日(金)  
第5回 令和2年 2月 27日(木)  
会場 エンパワメントセンター ワンズハウス 2階研修室  
内容 筆記試験・面接試験

### (2) 採用結果

新人職員 5名採用

## 5. 令和元年度職員研修の実施

職員のスキルアップを目指して、以下の通り内部研修の実施、外部研修へ参加をした。

研修名	研修内容	人数
職員研修	テーマ別ゼミ(6回) 発達障害ゼミ 講師：総括センター長 岸田隆	12人

	全体職員研修(1回) 映画「道草」を鑑賞し映画の中の障害者支援についてグループワーク 講師：宍戸大裕氏	43人
	長野市障害者虐待防止・権利擁護研修(3回)	80人
パートナースタッフ研修	スタッフ研修(9回) 「主体性を損なわない支援とは」講師：総括センター長 岸田隆	274人

#### 6. 職員託児事業

職員託児事業を行い、育児休業を取得した職員のスムーズな職場復帰と乳幼児のいる職員の職場定着を図ることができた。

場所	ワンズハウス2階 託児室																												
利用者数	4人																												
職員体制	保育士2人																												
開所日	246日(平成31年4月1日～令和2年3月31日)																												
開所時間	8:30～17:30																												
基本日課	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="text-align:center;">8:30</td> <td style="text-align:center;">9:30</td> <td style="text-align:center;">11:00</td> <td style="text-align:center;">12:30</td> <td style="text-align:center;">15:00</td> <td style="text-align:center;">16:00</td> <td style="text-align:center;">17:30</td> </tr> <tr> <td style="text-align:center;"> </td> <td style="text-align:center;"> </td> <td style="text-align:center;"> </td> <td style="text-align:center;"> </td> <td style="text-align:center;"> </td> <td style="text-align:center;"> </td> <td style="text-align:center;"> </td> </tr> <tr> <td style="text-align:center;"> </td> <td colspan="5" style="text-align:center;">-----</td> <td style="text-align:center;"> </td> </tr> <tr> <td style="text-align:center;">受入</td> <td style="text-align:center;">朝寝</td> <td style="text-align:center;">昼食</td> <td style="text-align:center;">昼寝</td> <td style="text-align:center;">おやつ</td> <td style="text-align:center;">帰宅①</td> <td style="text-align:center;">帰宅②</td> </tr> </table>	8:30	9:30	11:00	12:30	15:00	16:00	17:30									-----						受入	朝寝	昼食	昼寝	おやつ	帰宅①	帰宅②
8:30	9:30	11:00	12:30	15:00	16:00	17:30																							
	-----																												
受入	朝寝	昼食	昼寝	おやつ	帰宅①	帰宅②																							

#### 7. 苦情解決状況

苦情の内容		苦情の件数	結果	
1	施設運営に関すること	0件	1	解決済み 7件
2	施設整備等に関すること	0件	2	継続中 0件
3	支援に関すること	7件	7件	
4	その他	0件		

#### 8. 第三者委員報告会

日時	内容	出席者
令和2年3月6日(金) 午後1時30分より	令和元年度 苦情解決の状況について	矢下光子・白井千尋 岸田隆 ・奥村和枝



令和2年3月6日

## 令和元年度 苦情解決状況 報告書

令和元年度における苦情を下記とおり受付・解決しましたので、ご報告いたします。

### 記

受付日付	事業所	苦情の内容	講じた対応	解決状況
4/2	グループホーム (共同生活援助)	体調が悪いので、病院への通院に同行してほしいと依頼をしたが、1週間たっても担当者より通院同行についての連絡がなかった。	苦情を受けた後、速やかに職員が同行し病院の受診をしてもらった。	解決済
4/4	風の森 (生活介護)	通所施設で使用していた上履を自宅に持ち帰ったところ、その上履きが靴底もはがれとても劣化していた。もっと早く上履きの交換について相談してほしい。	ご本人が気に入っていた靴だったので、使えなくなるまで使用してもらったという説明をして、ご家族に理解してもらった。	解決済
5/27	森と木 365 (行動援護/移動支援)	外出プログラムの詳細予定が手元に届くのが遅く、予定が立てづらい。早めに詳細予定がほしい。	その次の回より早めに通知する旨を伝え理解してもらった。	解決済
9/13	グループホーム (共同生活援助)	グループホームからご家庭への連絡ノートに、(利用者)が夜中寝ないので、仮眠がとれないという内容の記載があった。	該当の職員に指導し、また、ご家族へその旨を伝え、理解してもらった。	解決済
10/4	風の森 (生活介護)	タクシーで自宅に送迎してもらった際に一人で玄関先に降ろされてしまった。行方不明になってし	送迎の際は、家族に直接お会いするまでは、その場を離れないようにタクシー会社に	解決済

		まったこともあるので、必ずヘルパーに引継ぐことをタクシー会社に徹底してほしい。	指導した。	
10/24	ベターデイズ (相談支援)	ベターデイズ主催の勉強会の申込の電話をしたが、担当者が不在で、連絡をもらうことになってしたが、連絡をもらうまでに2週間以上時間がかかった。	ご家族に謝罪し、当該の勉強会に参加してもらうようにした。	解決済
11/18	Bee (児童発達支援センター)	月予定の中で予定されていた活動が変更の通知もなく、翌月の活動に変わっていた。活動が変更になるときは、事前に教えてほしい。	活動の予定を通知せずに変更したことをご家族に謝罪し、担当職員に指導した。	解決済

上記の苦情解決状況報告書を確認しました。

令和2年3月6日

第三者委員氏名



第三者委員氏名

矢下光子





事業報告書【令和元年度】			
事業所名	主たる事業所：ベジタボーラ 従たる事業所：ごはんの森	サービスの種類	就労継続支援B型
1. 総括	<p>サンドイッチカフェでの仕事を通して、やりがいや誇りを感じながらいきいきと働き、充実した就業生活を送ることができるよう支援を行った。また、店舗だけでなく外部販売やイベント販売、また東急での販売に積極的に出店し、外部と交流する機会も多く持てた。</p> <p>給食製造の調理や配達等の就労機会を提供することで、仕事へのやりがいや誇り、達成感を実感し、充実した職業生活を送ることができるよう支援した。ごはんの森本体では6名～8名、Bee、森と木、風の森厨房では、それぞれ1～2名の利用者の方が働き、さまざまな作業種に取り組んだ。1日平均230食程度の給食を製造し、売り上げを伸ばすことができた。</p>		
2. 事業の内容	(1) 個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 個別支援計画に沿った、就労継続支援を行った。		
	(2) 個別支援計画の作成 就労継続支援計画を作成し6か月毎にモニタリングのケア会議を開催した。		
	(3) その他の事業 健康診断、避難訓練、職員会議、ケース会議、勉強会		
3. 職員数	管理者1名、サービス管理責任者1名、生活支援員2名、職業指導員2名、目標工賃達成指導員2名		
4. 利用者実績	1日平均15名（定員20名）		
5. 開設時間	ベジタボーラ 火曜日～日曜日 午前9:00～午後4:00 ごはんの森 月曜日～金曜日 午前9:00～午後4:00		
6. 活動/作業内容	(1) 店舗の運営（ベジタボーラ） パン屋の運営をし、調理補助、接客、洗浄、清掃、接客、外部販売等の作業支援を行った。また、雑誌やテレビでの紹介なども受入れ、宣伝活動も積極的に行った。 売上27,829,124円、工賃総額1,384,785円、平均工賃17,613円/月		
	(2) 給食施設の経営（ごはんの森） 調理、盛りつけ、配達、回収、洗浄作業等給食施設の運営を行った。 売上37,941,040円、工賃総額1,742,625円、平均工賃11,695円/月		
	(3) 勉強会 もりときマーケットと合同で、年2回「勉強会」を行い、衛生や接客について勉強した。飲食店で働く上で欠かせない、正しい手洗いの方法やよりよい挨拶について実践的に学び、日々の仕事に活かすことができた。		
	(4) 余暇企画 ボーリングやカラオケ、忘年会や暑気払いなどの余暇活動を実施した。 毎回10名程度の参加があった。		
	(5) 研修旅行 令和元年11月22日（金）～11月23日（土）於：松本浅間温泉、味噌蔵見学		
	(6) 店舗製品作り、アート活動 週に1日、希望により絵画などのアート活動を実施した。 陶芸では店舗で使う皿などを制作した。		
7. 単年度事業等	なし		

事業報告書【令和元年度】			
事業所名	もりときマーケット	サービスの種類	就労継続支援B型 生活介護
1. 総括	<p>レストランや喫茶店など店舗での仕事を通して、やりがいや誇りを感じながらいきいきと働き、充実した就業生活を送ることができるよう支援を行った。日々のコミュニケーションを大切に、一人一人の好きなこと、得意なことを見極め、新しい作業の提案を行った。また最初は難しいと感じる仕事も、視覚支援や補助道具を活用し、利用者の方に合ったやり方を見つけ、達成感や向上心につなげることができた。</p> <p>余暇企画も継続して行い、他店舗の利用者の方やスタッフとの交流を楽しみながらリフレッシュする機会を作ることができた。</p>		
2. 事業の内容	<p>(1) 個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 個別支援計画に沿った、生活介護及び就労継続支援B型支援を行った。</p> <p>(2) 個別支援計画の作成 生活介護計画及び就労継続支援B型計画を作成し6か月に1回モニタリングのケア会議を開催した。</p> <p>(3) その他の事業 健康診断、避難訓練、職員会議、ケース会議、勉強会</p>		
3. 職員数	<p>管理者1名、サービス管理責任者1名、生活支援員3名、職業指導員1名、目標工賃達成指導員2名、看護師1名、嘱託医1名</p>		
4. 利用者実績	<p>一日平均 就労継続支援B型5名（定員10名） 一日平均 生活介護5名（定員10名）</p>		
5. 開設時間	<p>曇り時々晴れ本店、西洋料理店もりたろう：火曜～日曜 午前9時～午後4時 曇り時々晴れ駅前店：月曜～日曜 午前9時～午後4時</p>		
6. 活動/作業内容	<p>(1) 店舗の運営 レストラン、喫茶店等飲食店の運営をし、菓子製造、調理補助、接客、店外販売、清掃等の作業支援を行った。また、ポスティングの他、雑誌やテレビでの紹介なども受入れ、宣伝活動も積極的に行った。</p> <p>①もりたろう売上 24,706,083円、工賃総額 808,290円、平均工賃 11,820円/月 ②曇り本店売上 8,147,704円、工賃総額 1,267,605円、平均工賃 15,055円/月 ③駅前店売上 13,443,609円、工賃総額 462,150円、平均工賃 19,080円/月</p> <p>(2) 勉強会 ベジタボーラと合同で、年2回「勉強会」を行い、衛生や接客について勉強した。飲食店で働く上で欠かせない、正しい手洗いの方法やよりよい挨拶について実践的に学び、日々の仕事に活かすことができた。</p> <p>(3) 余暇企画 ボーリングやカラオケ、忘年会や暑気払いなどの余暇活動を実施した。毎回7～8名程度の参加があった。</p> <p>(4) 研修旅行 令和元年10月20日（日）～10月21日（月） 於：戸倉上山田温泉、ガラス工芸体験</p> <p>(5) 店舗製品作り、アート活動 週に1日、希望により絵画などのアート活動を実施した。陶芸では店舗で使う皿などを制作した。</p>		
7. 単年度事業等	なし		

事業報告書【令和元年度】			
事業所名	ようこそ森とホラボ	サービスの種類	自立訓練（生活訓練） 就労移行支援
1. 総括	<p>発達障害のある人を対象に、自己理解を深めながら、将来のその人らしい自立生活を送れるようになることを目的に社会体験や学習活動等に取り組んだ。自立訓練事業では、個人で目標を決めて取り組む活動や仲間と目的を共有した協同活動、支援者との面談などを通して周囲の人との信頼関係を築き、自尊心を高めていけるよう支援を行った。住民自治協議会等と連携しイベントに参加する機会をつくることで、地域の人たちとの関係を築きながら、役割を持って社会へ参加していく経験となるような機会とし、活動に取り組んだ。</p> <p>就労移行支援事業では進路選択のためのアセスメントやワークトレーニングの支援、また障害者職業センターやハローワーク等を活用しながら就職に向けた支援を行い1名が就職をした。</p>		
2. 事業の内容	(1)個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 個別支援計画に沿った、自立訓練事業・就労移行支援事業を行った。		
	(2)個別支援計画の作成 自立訓練・就労移行支援計画を作成し3か月毎にモニタリングのケア会議を開催した。		
	(3)その他の事業 健康診断、避難訓練、職員会議、ケース会議		
3. 職員数	管理者1名、サービス管理責任者1名、就労支援員1名、生活支援員3名、職業指導員1名		
4. 利用者実績	就労移行支援1日平均4名（定員6名）、自立訓練9名（定員14名）		
5. 開設時間	月曜日～土曜日 午前9：00～午後4：00		
6. 活動/作業内容	(1)個別活動 興味のあることやできること、やってみたいことを一人ひとりが課題を決めて活動に取り組んだ。検定にむけた勉強や読書、アート制作、パソコントレーニングなど、本人が決めて取り組むことで達成感を感じられる活動となった。		
	(2)地域活動 子育てサロンへのボランティア参加や市民交流センター等地域のイベントに参加し販売を行った。		
	(3)自分研究 テーマに沿って自分の考えを発表したり、自分の気持ちを伝える力や相手の話を聞く力など、コミュニケーションスキルを高める活動を行った。		
	(4)特別活動 長距離のウォーキングイベント「ラボウォーク」を実施（5月23～24日）、権堂商店街七夕飾りの製作・出展、秋のチャレンジ企画として飯綱山登山（10月17日）と戸隠五社巡りの実施（11月1日）、善光寺灯明祭りの切り絵製作・出展、1年間の活動発表の機会として「ラボ感謝祭」（3月5日～7日）を開催した。1つの目的に向けて協力し合いながら、仲間との関係を深められる機会となった。		
	(5)スポーツ活動 体力づくりのために、球技やウォーキングなどのスポーツに取り組んだ。		
	(6)ワークトレーニング 企業での共同作業のイメージを持てるようになることを目的にして、協力・連携を取りながら作業を行った。（桜井甘精堂の箱折り、ネット販売の製品発送作業）		
	(7)職場見学、職業体験 就職に向けた支援として、ハローワークの同行支援や職場見学・職場体験（介護事業所、スーパー等）を行った。		
7. 単年度事業等	なし		

事業報告書【令和元年度】			
事業所名	地域活動支援センター カフェハクナマタタ	サービスの種類	地域活動支援センター I 型
1. 総括	<p>地域活動支援センター「カフェハクナマタタ」では、地域で暮らす障害のある人が安心して過ごせるための居場所の提供を行い、通年で多くの人の利用があった。個別相談の支援を行い、必要に応じて相談支援専門員や関係機関と連携をとり、次のステップへ移行するための支援も行った。</p> <p>地域の人たちと関係をつくり理解を広めるための取り組みとして、民生児童委員協議会での情報提供やオープンカフェを行った。また啓発活動として、民生児童委員を対象に勉強会の企画をしていたが、コロナ感染拡大防止の現況を踏まえて開催は見送りとなった。</p>		
2. 事業の内容	(1) 憩いの場の提供「カフェハクナマタタ」の運営と相談支援		
	(2) サークル活動の実施		
	(3) 当事者の話す会「しゃべくりカフェ」の開催		
	(4) 各種イベントの開催		
	(5) 地域とつながり理解を広めるための活動「オープンカフェ」の実施		
	(6) 地域住民にむけた啓発活動「よりよく生きる勉強会」の企画（実施は延期）		
	(7) カフェ通信「だいじょうぶだぁ通信」の発行		
3. 職員数	管理者 1 名、専門職員 1 名、指導員 2 名		
4. 利用者実績	1 日平均 20 名		
5. 開設時間	火曜日～土曜日 午前 10 : 00～午後 7 : 00		
6. 活動/作業内容	<p>(1) 「カフェハクナマタタ」の運営と相談支援 誰でも立ち寄れる場所としてカフェを運営した。個別相談の支援も行き、相談支援機関と連携を図りながら、次のステップのための情報提供等を行った。</p>		
	<p>(2) サークル活動 平日の夜間と土曜日の日中の時間帯に、料理・ゲーム・ダイエット・クラフト・将棋・スイーツサークルを行った。メンバーを固定して行き、同じ趣味を持つ人同士のつながりができ、楽しみを共有する関係が築けた。</p>		
	<p>(3) しゃべくりカフェ 日頃感じていることや悩みなどを話したり、聞きあったりする機会をつくった。思いを共有しあえる機会となった。</p>		
	<p>(4) 各種イベントの開催 喫茶外出やスポーツ、飲み会など、余暇を楽しむためのイベントを開催した。花見や夏祭りなど季節のイベントを楽しめる企画も行った。</p>		
	<p>(5) オープンカフェ 毎月一度（第 2 木曜日）、住民自治協議会や民生委員等と連携し、地域の人が集える場としてカフェを開放し、障害理解を広める機会をつくった。</p>		
	<p>(6) よりよく生きる勉強会 障害理解促進のための啓発活動として、3 月に第 1～5 地区の民生児童委員を対象に勉強会を企画していたが、コロナ感染拡大防止のため延期となった。</p>		
	<p>(7) だいじょうぶだぁ通信 2 ヶ月に一度、カフェのイベントやお知らせを掲載した通信を発行し、利用者や相談支援機関、他事業所等に配布し、情報提供を行なった。</p>		
7. 単年度事業等	なし		

事業報告書【令和元年度】			
事業所名	もりときピコ	サービスの種類	放課後等デイサービス
1. 総括	<p>発達障害のある小学生、中学生、高校生を対象に、放課後や休日に安心して過ごせる場所の提供、また支援者や友達との信頼関係を築いたりコミュニケーション力や社会性を育むことを目的にしたプログラムで支援を行った。</p> <p>チャレンジャーズでは、トレッキングやスノーシュー、キャンプ合宿のチャレンジ企画を実施し、友達と協力したり挑戦する機会となった。</p> <p>またご家族や学校、病院等関係機関との支援会議を行い、連携を図り情報共有をしながら、ご本人が安心して活動できるように取り組んだ。</p> <p>コロナ感染拡大防止のための全国一斉休校措置期間（3月上旬から）においては安全に配慮しながら日中のサービスを提供し、各家庭と連絡を取りながら緊急時における個々に必要な支援を行った。</p>		
2. 事業の内容	(1)個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 個別支援計画に沿った、放課後等デイサービスの提供を行った。		
	(2)個別支援計画の作成 個別支援計画を作成し6か月毎にモニタリングのケア会議を開催した。		
	(3)その他の事業 健康診断、避難訓練、職員会議、ケース会議学校訪問、ケア会議への参加、送迎サービス		
3. 職員数	管理者1名、児童発達支援管理責任者1名、指導員6名		
4. 利用者実績	1日平均9名（定員10名）		
5. 開設時間	月曜日～金曜日 午後3:00～午後7:00 / 土曜日 午前9:30～午後3:30		
6. 活動/作業内容	(1)学びタイム 宿題のサポートや本を読んだりする自習の時間を設け、支援を行った。		
	(2)友だちタイム 調理や工作、ゲームなど集団活動に取り組むことを通して、友だちとの関わり方やルールを守ること、気持ちのコントロールの仕方などを実践的に学び、自信を高めていけるよう支援を行った。		
	(3)マイルーム 中高生を中心に個々に必要なスキルの向上を目指し、個別の課題に取り組んだ。		
	(4)クラブ活動 同じ趣味の仲間との関わりを楽しめるよう、アート、スポーツ、鉄道のグループに分かれて活動に取り組んだ。同じメンバーで集まる時間となり、関わりを深めながら共に楽しむ姿が見られた。		
	(5)チャレンジャーズ これまでしたことのないことに挑戦することを目的に、飯山七福神めぐり（5月25日、中高生対象）、飯山でのキャンプとツリーハウス体験（7月26～27日、小学5年生以上）、茶臼山トレッキング（10月5日、小学生対象）、鍋倉高原スノーシュー（1月18日）を行った。キャンプは1泊で行い、家族から離れ友だちと宿泊しながら様々な社会体験の場を提供することができた。		
7. 単年度事業等	なし		

事業報告書【令和元年度】			
事業所名	デイセンター風の森	サービスの種類	生活介護
1. 総括	風の森は、ひとりひとり好きな事や得意な事を活かし、作業や他活動と様々なグループで活動を行った。作業ではクラフトお菓子とオリジナル製品の制作を行い、法人店舗や個人の注文に対応、新たな個人雑貨店と契約し販売することができた。季節を感じる活動や作業グループで、それぞれ趣味や好きな時間を過ごしていただけたよう小集団で外出する機会をつくった。 身体面では、健康に通所できるような環境に配慮したうえで。機能維持活動や休憩の取り方等一人一人の身体状況に合わせ提案した。		
2. 事業の内容	(1) 個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 個別支援計画に沿った、生活介護を行った。		
	(2) 個別支援計画の作成 生活介護計画を作成し6か月毎にモニタリングのケア会議を開催した。		
	(3) その他の事業 健康診断、避難訓練、職員会議、ケース会議、ケア会議、送迎サービス		
3. 職員数	管理者1名、サービス管理責任者1名、生活支援員14名、看護師1名、嘱託医1名		
4. 利用者実績	1日平均21名（定員20名）		
5. 開設時間	月曜日～土曜日 午前9：00～午後4：00		
6. 活動/作業内容	(1) 作業活動 作業グループの所属は昨年度と変わらず、お菓子：ソフトクッキー、木工：笑うBOX、クラフト：あかんべー他、の制作を得意な作業工程中心に個々で取り組みました。季節に合わせてクッキーの種類を変えたり、クラフトでマスク制作をしたり、担当しているスタッフと活動グループ内で話をしながら、その時々に合わせて物づくりに取り組んでいます。		
	(2) 季節を感じる活動 それぞれ趣味に合わせて少人数のグループで活動を行った。外出(BBQや映画鑑賞など)、季節の食材料理(バジル料理、バレンタイン企画など)を計画、年末には忘年会旅行でアゼイリアへ1泊する企画を行った。		
	(3) アート活動 描くことが好きな方中心にアート活動する機会をつくり、施設内に展示したり作品展に参加したりすることが出来た。		
	(4) フリータイム企画 金曜の午後の映画鑑賞は定着しており毎週楽しみにする方がいた。運動の時間も計画していたが実行できず、次年度の課題にしたい。		
	(5) 地域とつながる活動 外で活動する方中心に、平林地区の地域清掃や歩道の草取りを行った。		
	(6) からだをつくる活動 個別の時間を設け、本人専用の用具を使い体力維持活動をしたり、身体を動かす機会を作ることができた。		
	(7) もりから堂運営 今年度はもりから堂を知っていただく機会を作る為、長野のアーティスト等手ぬぐい制作している方に参加いただき、手ぬぐい市を行った。		
7. 単年度事業等			

事業報告書【令和元年度】			
事業所名	モーリー農場	サービスの種類	生活介護
1. 総括	主に知的障害や自閉症がある方を対象に、個々に応じたわかりやすい環境の中で安心して生活を送り、様々な活動を通して地域の人とつながりをもつとともに、地域の中における自分の役割を感じながら、その人らしくやりがいをもって日々すごせるための支援をおこなってきた。		
2. 事業の内容	(1) 個別支援計画の作成 生活介護計画を作成し、6カ月に1回モニタリングのためのケア会議を開催した。 (2) 個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 個別支援計画に沿った生活介護をおこなってきた。 (3) その他の事業 健康診断 避難訓練 送迎サービス 職員会議 ケース会議		
3. 職員数	管理者1名、サービス管理責任者1名、生活支援員11名、看護師1名、嘱託医1名		
4. 利用者実績	1日平均20名（定員20名）		
5. 開設時間	月曜日～土曜日 午前9：00～午後4：00		
6. 活動/作業内容	(1) 作業活動 グループに分かれて作業活動をし、販売等を通して地域とのつながりを深めてきた。 ① ジャム・ピクルスグループ できるだけ県内産の原材料を使用したオリジナルジャム・ピクルスの製造・販売をおこなった。また農家と契約をし、原材料の仕入れをおこなった。 ② トマトケチャップグループ 年間を通してトマトケチャップを製造し、販売をしてきた。リピーターが増え、県外からの注文も入った。 ③ しいたけグループ 原木しいたけを栽培し、生しいたけの販売をおこなった。夏～秋はしいたけ山作業を行い、冬～春はハウス内での栽培をおこない、収穫し販売した。 ④ 畑グループ 徳間、三才、上駒沢の圃場を作業場所として、無農薬で加工用トマトの栽培や雑穀の栽培をおこなった。また、ピクルスに使用する野菜の収穫や販売目的としての野菜の栽培もおこなった。 ⑤ 受注作業グループ 箱折りや袋詰め作業など地域の企業やボランティア団体などからの受託作業を行ってきた。 ⑥ 店舗運営 外部での販売、県外への発送作業の機会があったため店舗運営は行わなかった。 (2) 社会体験プログラム 平日に作業グループごとに外出や食事会などの余暇活動を企画し実施した。 また、一泊または日帰り旅行をした。 ① 社会体験プログラム BBQ：9月11日、9月18日 ランチ&カラオケ：12月12日 温泉&ランチ：12月16日 12月23日 ピアノコンサート：12月20日 ケーキ作り：1月28日 ② 旅行 上越水族館日帰り：6月19日、6月26日 鉄道博物館日帰り：7月17日、7月19日 戸隠トレッキング：10月24日 金沢日帰り：9月19日、10月11日 群馬1泊旅行（こんにやくパーク&鬼押し出し）：9月5日～6日 山梨1泊旅行（山梨県立リニア見学センター&白百合醸造）：11月27日～28日 (3) アート活動 毎週火曜日の午後に、個別の活動として、陶芸や絵画などのアート活動をおこなった。		
7. 単年度事業等	なし		

事業報告書【令和元年度】			
事業所名	もりすけ	サービスの種類	生活介護
1. 総括	主に知的障害や自閉症がある方を対象に、個々に応じたわかりやすい環境の中で安心して生活を送り、様々な活動を通して地域の人とつながりをもつとともに、地域の中における自分の役割を感じながら、その人らしくやりがいをもって日々すごせるための支援を行ってきた。		
2. 事業の内容	(1) 個別支援計画の作成 生活介護計画を作成し、6カ月に1回モニタリングのためのケア会議を開催した。		
	(2) 個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 個別支援計画に沿った生活介護を行ってきた。		
	(3) その他の事業 健康診断 避難訓練 送迎サービス 職員会議 ケース会議		
3. 職員数	管理者1名、サービス管理責任者1名、生活支援員8名、看護師1名、		
4. 利用者実績	1日平均15名（定員20名）		
5. 開設時間	月曜日～土曜日 午前9：00～午後4：00		
6. 活動/作業内容	(1) 作業活動 グループに分かれて作業活動をし、販売等を通して地域とのつながりを深めてきた。 ①焼菓子グループ 無農薬栽培にこだわった雑穀や小麦等の材料を使用し、健康に配慮したグルテンフリーのオリジナル焼菓子の製造と販売を行ってきた。定期的な販売活動を行い、地域との繋がりを大切に行ってきた。 ②下請けグループ 箱折り作業、ベーク板シールはがし、かご拭きなど企業からの受託作業をおこなってきた。少人数のグループの中で、ひとり一人が役割をもって作業活動に取り組み、達成感を得られるよう支援を行ってきた。		
	(2) 社会体験プログラム 平日に外出や食事会など作業グループの特性に合わせ余暇活動を企画し実施した。また、一泊または日帰り旅行を行った。 ① 社会体験プログラム バラ祭り：6月7日 BBQ：8月19日 カラオケ：12月13日 おやき作り：3月2日、3月6日 ②旅行 上越水族館日帰り：6月19日、6月26日 鉄道博物館：7月17日、7月19日 戸隠トレッキング：10月24日 金沢日帰り：9月19日、10月11日 群馬1泊旅行（こんにやくパーク&鬼押し出し）：9月5日～6日 山梨1泊旅行（山梨県立リニア見学センター&白百合醸造）：11月27日～28日		
	(3) アート活動 毎週火曜日の午後に、個別活動として絵画のアート活動をおこなってきた。		
7. 単年度事業等	なし		



事業報告書【令和元年度】			
事業所名	森と木 LIFE 森と木 365 デイフロア	サービスの種類	生活介護
1. 総括	行動障害がある自閉症の方や重い知的障害があるために、人との関わりや日常生活に困難を抱えている方を主な対象として、構造化された環境や日課を提供し、安心して社会生活を送るための支援について検証・確立すると共に、無理の無い範囲で人と関わることに慣れていく機会を提供することを目的として活動を行った。		
2. 事業の内容	(1) 個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 個別支援計画に沿った、生活介護を行った。		
	(2) 個別支援計画の作成 生活介護計画を作成し6か月毎にモニタリングのケア会議を開催した。		
	(3) その他の事業 健康診断、避難訓練、職員会議、ケース会議		
3. 職員数	管理者1名、サービス管理責任者1名、生活支援員13名、看護師1名、嘱託医1名		
4. 利用者実績	1日平均19名（定員20名）		
5. 開設時間	月曜日～土曜日 午前9：00～午後4：00		
6. 活動/作業内容	(1) 活動拠点とそれぞれの目的 森と木 LIFE を、利用者の障害特性や許容できる刺激のレベルに合わせた3つの拠点に分け、拠点それぞれで活動を行った。活動環境を整備して構造化を図り、分かりやすい日課を提示したり、落ち着くことのできる環境を用意したり、気になる物を極力減らしたりするなどの支援を行なった。 森と木 365 デイフロアでは、それぞれのペースに合わせて作業や趣味的な活動に取り組み、安心して活動できる環境を確保しつつ社会との繋がりを意識した活動を行った。		
	(2) 基本的な日課となる活動 空き缶リサイクル・企業からの受注作業・課題活動・絵画などのアート活動・ウォーキング等の運動に取り組んだ。		
	(3) 余暇的な活動 森の家を使い、昼休みの時間にカフェを運営した。利用者がお菓子やジュースの飲食ができたり、料理や菓子を一緒に作って食べたりするなど、利用者が楽しめるイベントを計画・実行した。日帰り旅行を企画し5,6人のグループで長野県内や近隣の県に出かけてレジャー等を楽しんだ。また、個別のニーズに合わせて、買い物・外出・外食・料理などの余暇的な活動を行った。		
7. 単年度事業等	なし		



事業報告書【令和元年度】			
事業所名	地域生活相談室 ベターデイズ	サービスの種類	長野市障害者相談支援事業 長野市児童発達相談支援事業 長野市障害者虐待防止・権利擁護相談支援事業 長野市障害者差別解消相談支援事業 長野県障がい児等療育支援事業 長野県発達障がいサポートマネージャー整備事業 指定一般相談支援事業 指定特定障害者相談支援事業・障害児相談支援事業 長野市ケアプラン作成事業
1. 総括	<p>地域生活相談室ベターデイズは、長野市からの委託相談4事業、長野県からの委託相談支援2事業、指定特定障害児・者相談支援事業を中心に運営を行った。</p> <p>障害者相談支援事業では、うつ、統合失調症、発達障害の方の相談が多く、ご本人よりも家族からの相談が増加。将来の不安を感じての相談も多い。障害福祉サービスにつながらず、社会資源の不足などにより支援の見通しがつかずに家族が抱え込んでしまう困難ケースの相談が増加し地域課題としてケアマネ連絡会で検討した。</p> <p>児童発達相談支援事業では、児童発達支援や放課後等デイ等の障害サービスを利用希望の家族からの相談が増え事業所の紹介を行った。養育の困難さを抱える家族の相談や児相が関与し、家族全体の支援が必要なケースへの支援調整に関わる相談が増加。研修として障害理解・啓発を目的に、内山登紀夫氏をお呼びした講演会では260名ほどの参加があった。</p> <p>虐待防止・差別解消相談支援事業では、通報・相談受付とともに、福祉事業所や民生児童委員を対象とした出前講座の開催などを行った。相談・通報件数は前年度より増え、法の周知が少しずつ進んでいる。福祉施設従事者、当事者や民間事業者等への啓発活動をさらに充実させていく必要がある。</p> <p>障害児等療育支援事業では長野圏域北部を担当し、家族や教育、保育機関への訪問、相談援助を行った。長野圏域のネットワーク作りとして、放課後デイサービス等事業所連絡会を行い、地域課題の共有をはかった。</p> <p>発達障がいサポートマネージャー整備事業においては医療・福祉・教育等の支援機関がつながりを持てるような働きかけを行った。今年度からの試みとして、長野圏域での行動障害の支援者(30名程)を募り「支援者のための行動障害研究会」を開催し、行動障害の方のセーフティーネット機能の強化に向けての取り組みを行った。(5回開催)</p> <p>特定障害児・者相談支援事業では、契約者数は560名ほど。相談支援専門員一人の担当人数を調整している。困難なケースではケア会議の回数の増加や各サービス提供機関との調整に難航し、書類作成が増え、ケアプランナーの役割を超え、加重となるケースもある。</p> <p>指定一般相談支援事業、長野市ケアプラン作成事業については、西駒郷や他圏域からの相談はあったが、地域移行までにはつながらなかった。</p>		
2. 事業の内容	<p>(1)長野市障害者相談支援センター</p> <p>長野市在住の障害者を対象に相談支援を行った。また、長野市障害ふくしネット(長野市自立支援協議会)に参加し、ケアマネ連絡会での事例検討、地域の課題の検討を行った。</p> <p>【相談件数】1,246件</p> <p>(内訳)訪問支援:55件、同行:61件、来所相談:119件、電話相談:627件、メール相談:15件、個別支援会議:321件、関係機関:11件 その他:37件</p> <p>(2)長野市発達相談支援センター</p> <p>長野市在住の障害児とその家族を対象に相談支援を行った。また、長野市障害ふくしネット(長野市自立支援協議会)に参加し、ケアマネ連絡会で事例検討、こども部会では地域課題を検討した。また、長野市からの委託事業として、市民を対象とした障害理解のための研修会を行った。</p> <p>【相談件数】1,753件</p> <p>(内訳)訪問支援:97件、同行:86件、来所相談:153件、電話相談:296件、メール相談:46件、個別支援会議:194件、関係機関:867件 その他:14件</p>		

	<p>・障害児発達支援研修啓発業務：「長野市こどもの発達を考える市民勉強会」令和2年2月15日（土）、「こだわり君とふしぎちゃんの明るい未来を考えるセミナー」をテーマに研修会を実施、260名の参加。</p> <p>(3)長野市障害者権利擁護サポートセンター（虐待防止・差別解消） 虐待防止・権利擁護相談支援として、障害者虐待防止の出前講座を事業所向けに行った。また長野市の委託事業として、福祉施設従事者向け、家族向けに障害者虐待防止・権利擁護研修会を3回実施した。 差別解消相談支援として、民生児童委員や事業所向けに、差別解消法の研修会を実施した。また、長野市障害ふくしネットやさしいお店プロジェクトの事務局として、差別解消法の啓発活動である「長野市やさしいお店登録制度」の広報を進めた。 【相談（通報）件数】虐待防止：22件 差別解消：4件 【出前講座】10回（250名参加）</p> <p>(4)長野県障がい児等療育支援事業 長野圏域で在宅の障害児を対象に、園訪問相談を行い必要に応じ療育支援や障害福祉サービスの情報提供を行った。また、放課後等デイサービス事業所連絡会や障害のある子どもを持つ親御さんを対象にゆったりズム（学習会）を実施した。 【相談件数】2,708件 （内訳）訪問支援：210件、同行：88件、来所相談：153件、電話相談：1,216件、メール相談：455件、個別支援会議：499件、関係機関：77件 その他：10件</p> <p>(5)発達障がいサポートマネージャ整備事業 長野圏域を対象に、発達障害のあるご本人や、家族の相談を行っている支援者からの相談を受け、福祉サービスの利用や支援の方向性の検討を行った。医療、教育、福祉の専門機関がそれぞれの役割を理解しつつの緩やかな繋がりを広めてきている。 【相談件数】：200件 （内訳）個別支援：93件、会議等出席：107件</p> <p>(6)指定特定障害者相談支援事業・障害児相談支援事業 障害児・者への継続的な相談支援として、相談の受付、アセスメントを行い障害児・者の抱えている課題に対し適切なサービス等利用計画の作成を行い、安心して地域生活が送れるための見守り支援を行った。 【実績】 障害児相談支援 障害児支援利用計画：266件、継続サービス利用支援：302件 障害者相談支援 サービス等利用計画作成：307件、継続サービス利用支援 565件</p>
3. 職員数	管理者1名、長野市委託相談員3.3名、療育コーディネーター2名、発達障がいサポートマネージャ1名、相談支援専門員7名
4. 開設時間	月曜日～金曜日 午前8：30～午後5：30

事業報告書【令和元年度】			
事業所名	森と木 365	サービスの種類	短期入所
1. 総括	<p>在宅生活をしている障害のある人の家族の介護負担軽減や体験宿泊的な支援等を目的に宿泊の支援を行った。利用者の処遇については、身体、その他の状況及びその置かれている環境に応じて、入浴、排せつ及び食事等の介助を適切かつ効果的に行うことができた。</p> <p>新たな利用希望は随時相談に応じ、10名以上の新規契約者が利用を開始したほか、他圏域での困難ケースの受け入れや虐待を含めた家庭内トラブルで緊急的な利用が必要な障害のある人の受け入れも継続して行った。</p> <p>台風19号で自宅が被害にあわれた利用者を当日から受入し、長期間にわたりサービス提供を行った。</p>		
2. 事業の内容	<p>(1) サービス等利用計画に沿った短期入所の提供 サービス等利用計画に沿って短期入所サービスの提供を行った。</p> <hr/> <p>(2) その他の事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎サービスを実施した。</li> <li>・利用者の支援会議に参加し、サービスの調整を行った。</li> </ul>		
3. 職員数	管理者1名、生活支援員3名		
4. 利用者実績	1日平均11.3名（定員18名） ※契約者数250名		
5. 開設時間	月曜日～日曜日		
6. 活動/作業内容	<p>(1) 日常生活上の介助、支援 支援計画に基づき、食事、入浴、着替え等の支援を行った。</p> <hr/> <p>(2) 自立生活に向けた相談、助言 ご本人やご家族から、将来の自立生活についての相談を受け、助言を行った。</p>		
7. 単年度事業等	なし		



事業報告書【令和元年度】			
事業所名	コミュニティケアセンター 森と木 365	サービスの種類	居宅介護(身体、通院)・行動援護、移動支援、市町村タイムケア、長野市障害児自立サポート、独自サービス
1. 総括	<p>行動援護事業、市町村移動支援事業の実施要綱に基づき、障害のある大人の方を対象に平日の夕方の時間や休日に、必要な支援を受けながらあらゆる社会体験を通して自己実現・自己選択・自己決定の機会を得られるよう多様なサービスの提供を行った。また、ホームで生活している重度の身体障害、行動障害のある方に対し、自分らしく生活が送れるようヘルパーを派遣し、居宅介護事業の提供を行った。タイムケア、自立サポート、独自サービスについては、在宅で生活されている方の一時的な預かりや緊急時の預かり、介護軽減等を目的にサービスの提供を行った。</p>		
2. 事業の内容	<p>(1)市町村移動支援事業、行動援護事業の実施 平日の夕方や週末に余暇活動の提案をし、参加者に適切な支援を行った。また、集団が苦手な方には個別の外出を提案し、社会参加の機会を提供した。</p> <p>(2)居宅介護 在宅で生活されている方やケアホームで生活されている方を対象に、居宅介護等計画に沿った身体介護や家事援助の提供を行った。また、定期通院などには通院等介助の提供を行った。</p> <p>(3)市町村タイムケア 障害のある方が、家庭等で介護できないときに一時的な預かりや緊急時の預かりなどを行った。</p> <p>(4)長野市障害児自立サポート 障害のある子どもが、地域で充実した生活を送りながら、将来の自立に向けた様々な体験ができるよう支援を行った。</p> <p>(5)法人独自サービス 病院の付添等福祉サービスが使えない場合や、タイムケア・自立サポートの上限数を超過してしまった場合などに、利用者の実費負担でサービスの提供を行った。</p> <p>(6)その他の事業 送迎サービス</p>		
3. 職員数	管理者 1 名、サービス提供責任者 2 名 ヘルパー 30 名		
4. 利用者実績	月平均利用時間 居宅介護 330 時間、行動援護 50 時間、移動支援 189 時間、タイムケア 883 時間、自立サポート 398 時間		
5. 開設時間	365 日 24 時間		
6. 活動/作業内容	<p>(1)サークルQ 毎週土曜に定員 5 名程度の外出企画で参加者を募り、余暇支援の提供を行った。各年齢層に応じた活動を提案し多くの人に参加してもらい、余暇活動の提供を行った。</p> <p>(2)大人倶楽部 年に 1、2 回、定員 5 名程度の利用者で活動グループを作り、外出企画を提供した。初の試みの企画であったため、参加希望者が多数集まり、同一企画を 4 回実施するなどに対応した。</p>		

	<p>(3)アフター5  (火)歌サークル、(水)料理サークル、(木)スポーツ、(金)アートサークルと活動設定し、平日5名から10名程度利用者に余暇活動の提供を行った。</p> <p>(4)居宅介護(身体介護、通院介助)  在宅で暮らしている方やケアホーム入居者を対象にヘルパーを派遣し、サービスの提供を行った。</p> <p>(5)行動援護・移動支援  日中の外出活動(外食・プール・温泉・ウォーキング等)の要望を受け、個別にサービスの提供を行った。</p> <p>(6)タイムケア  日中の一時預かりや緊急時などの対応、外出以外の余暇活動の支援を行った。</p> <p>(7)長野市障害児自立サポート  放課後等デイサービスの営業時間外の時間帯で児童に対してサービスの提供を行った。</p> <p>(8)ダンススクール  毎月2回、日曜日に開催した。</p>
7.単年度事業等	なし



事業報告書【令和元年度】			
事業所名	こども発達支援センター B e e	サービスの種類	児童発達支援 保育所等訪問支援
1. 総括	<p>障害のある子どもや発達に不安のあるご家族の相談業務を行った。通所する子どもたちの支援として、日常生活における基本的動作の習得や、集団生活に適應することができるような集団活動を提供し、身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて適切な指導及び訓練を実施した。また、発達に心配のある乳幼児期のお子さんに対し、遊びを通して楽しみながら発達を促す支援を行ったほか、家族への子育て支援も行ってきた。</p> <p>保育所等訪問支援では、地域の保育園、幼稚園、小学校などを併用する子どもに対し、子どもへの直接支援や保育士、教員に対しアドバイスをを行った。</p> <p>長野市乳幼児健全発達支援相談では、真島保健センター、東部保健センターの2か所に参加し、各センター10回訪問し支援を行った。</p>		
2. 事業の内容	(1) 個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 個別支援計画に沿った児童発達支援および保育所等訪問支援を行った。		
	(2) 個別支援計画の作成 児童発達支援計画を作成し、6か月毎にケア会議を開催した。		
	(3) 長野市乳幼児健全発達支援相談（すくすく広場プラス）の実施 長野市こども未来部と連携し、真島保健センター・東部保健センターのすくすく広場に参加する子ども及びご家族に対し、育児や発達支援、発達相談等を行った。		
	(4) その他の事業 地域の保育所、小学校等への移行支援を行なった。また、市内保育園、幼稚園の保育士の施設見学の受入を行い、対象児童への支援の引継ぎをおこなった。		
3. 職員数	管理者1名、児童発達支援管理責任者1名、児童指導員1名、保育士10名、看護師3名、訪問支援員2名		
4. 利用者実績	児童発達支援 1日平均21名（定員25名）※契約者数54名 保育所等訪問 年間292件 ※契約者数55名		
5. 開設時間	月曜日～土曜日 午前9:00～午後4:00		
6. 活動/作業内容	(1) 基本的な生活習慣の形成に関する支援の実施 アセスメントを行い、トイレトレーニングや食事等の基本的な生活習慣の形成に関する支援を行った。		
	(2) 社会性や対人関係に関する支援の実施 集団生活の中での遊びを通して、社会性や対人関係に関する支援を行った。		
	(3) 運動や健康に関する支援の実施 粗大運動を取り入れた活動の提供や、看護師による健康管理などの支援を行った。また、月1回土曜日にたいそう教室、なかよし教室を開催した。 なかよし教室：9回実施、たいそう教室：10回実施。		
	(4) ママさんグータンの実施（母親同士の交流会等） ・4月23日 就学についての勉強会① （講師：長野市教育センター教育相談室 大井透氏） ・6月14日 長野養護学校見学会 ・11月20日 放課後等デイサービス事業所見学会①（ひゅうまん、ピコ、茜舎） ・11月28日 放課後等デイサービス事業所見学会②（歩楽里、ひふみ北長野教室） ・5月20日～24日、8月5日～9日、2月17日～21日 保育参観 ・3月2日 就学についての勉強会② （講師：長野市教育センター教育相談室 大井透氏、卒園児保護者2名による意見交換会）		

	<p>(5) みんなの広場の実施(家族参加のお楽しみ会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月20日 親子レク(18 家族)</li> <li>・7月20日 なつまつり(30 家族)</li> <li>・12月21日 クリスマス会(31 家族)</li> <li>・3月28日 卒園証書授与式(14 家族)</li> </ul> <p>※10月実施予定であった運動会は台風19号の影響により中止</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>(6) 保育所等訪問支援の実施</p> <p>登録55名の児童に対し、児童の所属する場所において個別および担当者への支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所：12園</li> <li>・幼稚園：8園</li> <li>・公立小学校：10校</li> <li>・養護学校、特別支援学校：3校</li> <li>・児童センター：1か所</li> </ul>
7. 単年度事業等	なし

事業報告書【令和元年度】			
事業所名	エンパワメントセンター ワンズハウス	サービスの種類	共同生活援助
1. 総括	<p>利用者が地域において共同して自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、身体及び精神の状況や、環境に応じて、入浴・排せつ及び食事等の介護、相談その他の日常生活上の支援を適切に行った。また、障害のある人の地域の暮らしの場であるグループホームにおいて、一人ひとりがより豊かな地域生活を送ることができるように、きめ細やかな支援を行った。</p> <p>サテライト型ホームを開始して3年目を迎え、移行対象の3名のうち1名が単身生活となった。2名の利用者については継続して支給を受けることができ、サテライト型での支援を継続することになった。また、毎年、一人暮らしタイプのホームの利用者を対象に、一人暮らしへの希望の聞き取りや生活能力のアセスメントを実施し、サテライト型ホームへの移行にむけ面談をすすめてきたが、今年度は移行する利用者はいなかった。</p>		
2. 事業の内容	<p>(1) 共同生活援助計画の作成 6ヶ月に1度、共同生活援助計画の見直しを行い必要に応じて変更を行った。</p> <p>(2) 生活支援 食事の提供や、掃除の支援、余暇時間の活動提案など、利用者1人ひとりの個別支援計画に沿ったサービスを提供した。</p> <p>(3) その他の事業 職場や通所先で健康診断を受けることができない利用者の方向けに10月に長野県健康づくり事業団による健康診断を実施した。また、希望者にはインフルエンザの予防接種や歯科検診の機会を提案し、健康管理に努めてきた。</p>		
3. 職員数	管理者1名、サービス管理責任者3名、世話人33名、生活支援員60名		
4. 利用者実績	1日平均85名（定員101名）		
5. 開設時間	365日		
6. 活動/作業内容	<p>(1) 日常生活上の介助、支援 個別支援計画に基づき、食事、入浴、着替え等の支援を行った。</p> <p>(2) 余暇等の社会参加の支援 個別支援計画に基づき、移動支援サービスや各種イベント等への参加等を提案し、必要に応じて予約などの手続きを行った。</p> <p>(3) 健康管理 体調不良や定期通院等必要に応じて通院に付き添い、医療機関との連携を図りながら日々の健康管理に努めた。</p> <p>(4) 夜間巡回の実施 毎日16時～21時の間に夜間巡回を実施し、入居者の生活状況を把握すると同時に世話人、生活支援員と情報交換を行い、連携を図った。</p> <p>(5) 金銭管理 当法人では金銭管理を基本的に行わない方針であるが、ご家族による金銭管理が難しい場合や、社会福祉協議会の日常生活自立支援事業の契約が難しい利用者5名において法人金銭管理規定に基づき金銭管理を実施した。</p>		
7. 単年度事業等	なし		

## 共同生活住居の状況

(1) 利用者の状況

①構成：男性 71 名、女性 25 名（うちサテライト型住居：男性 6 名、女性 3 名）

②平均年齢：34.6 歳

③平均支援区分：4.2

(2) 共同生活住居名および定員

住居名	所在地	定員	現員
みわ	長野市三輪	5 名	5 名
ぼるて平林A	長野市平林	4 名	4 名
ぼるて平林B	長野市平林	4 名	4 名
サンディ東和田	長野市東和田	7 名	7 名
パル平林	長野市平林	5 名	4 名
アルファ東和田 I	長野市東和田	6 名	5 名
メゾン浅川 A	長野市浅川押田	6 名	6 名
メゾン浅川 B	長野市浅川押田	6 名	6 名
アルファ東和田 II	長野市東和田	6 名	6 名
メゾン浅川 II	長野市浅川押田	4 名	2 名
サンハイム稲田 A	長野市稲田	5 名	5 名
サンハイム稲田 B	長野市稲田	4 名	4 名
ハイツもりた	長野市高田	6 名	6 名
グリーンハイツ稲田	長野市稲田	6 名	6 名
グリーンハイツ稲田イースト	長野市稲田	7 名	7 名
エクセリーナ森と木 A	長野市稲田	5 名	5 名
エクセリーナ森と木 B	長野市稲田	5 名	5 名
サテライト型住居 (9 か所)	長野市内	9 名	9 名

事業報告書【令和元年度】			
事業所名	グリーンハイツ稲田	サービスの種類	短期入所
1. 総括	<p>児童養護施設、精神科病院などを退所したが家庭での生活が困難な障害児・者に対し、地域移行のためのアセスメントと必要な支援を検討・実施することを目的に、短期入所のサービスを提供した。</p> <p>利用者の身体、その他の状況及びその置かれている環境に応じて、入浴、排せつ及び食事の介助、その他の必要な相談支援等を行った。</p>		
2. 事業の内容	(1) 個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 ケアプランに沿って短期入所サービスの提供を行った。		
	(2) その他の事業 送迎サービス、支援会議への出席		
3. 職員数	管理者 1 名、生活支援員 1 名		
4. 利用者実績	1 日平均 0.38 名（定員 2 名）※契約者数 1 名		
5. 開設時間	月曜日～日曜日		
6. 活動/作業内容	(1) 日常生活上の介助、支援 支援計画に基づき、食事、入浴、着替え等の支援を行った。		
	(2) 自立生活に向けた相談、助言 ご本人やご家族から、将来の自立生活についての相談を受け、助言を行った。		
7. 単年度事業等	なし		

事業報告書【令和元年度】			
事業所名	こどもの自立生活館茜舎	サービスの種類	放課後等デイサービス
1. 総括	<p>児童福祉法で定められた放課後等デイサービスの提供を行った。学齢期の障害のある子どもたちを対象に、放課後や休日に年齢相応の様々な社会体験を積み重ねられるよう「わくわく」と「クラブ」の活動を企画・実施してきた。</p> <p>また、家族への支援として介護軽減、緊急時に対応できる体制も整え、障害のある子ども達を地域で支えるための支援を行った。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のための全国一斉休校措置期間(3月上旬から)においては安全に配慮しながら日中のサービスを提供し、各家庭と連絡を取りながら緊急時における個々に必要な支援を行った。</p>		
2. 事業の内容	(1)個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 個別支援計画を作成し6か月毎にモニタリングのケア会議を開催した。		
	(2)個別支援計画の作成 個別支援計画に沿った、放課後等デイサービスの提供を行った。		
	(3)その他の事業 送迎サービス、避難訓練、茜舎説明会、個別面談		
3. 職員数	管理者1名、児童発達支援管理責任者1名、保育士2名、児童指導員1名、指導員3名		
4. 利用者実績	1日平均10名(定員10名)		
5. 開設時間	月曜日～金曜日 午後2:30～午後6:30 土曜日等学校休業日 午前9:30～午後3:30 ※緊急時の対応として、365日24時間の体制を確保		
6. 活動/作業内容	(1)わくわくプログラム 小学校1年生～3年生を主な対象とし、週替わりにテーマが変わるプログラムを企画・実施し、様々な遊びや社会体験に触れられる機会を提供した。また、長期休暇については特別プログラムを実施し、プールやデイキャンプなどの活動を行った。		
	(2)クラブ 小学校4年～高校3年生を主な対象とし、曜日ごとにテーマ(アウトドア、お料理、アート、おでかけ、スポーツ、お楽しみ)を決めた「クラブ」を実施し、その活動のなかで様々な遊びに触れ、社会体験を積み重ねられるよう、プログラムを企画・実施した。また長期休暇に関しては特別プログラムを実施し、プールやデイキャンプなどの活動を行った。		
7. 単年度事業等	なし		

事業報告書【令和元年度】			
事業所名	ワンズハウス	サービスの種類	放課後等デイサービス
1. 総括	<p>児童福祉法で定められた放課後等デイサービスの提供を行った。学齢期の障害のある子どもたちが、放課後・休日に年齢相応の様々な社会体験を積み重ねられるよう、曜日ごとにテーマを決めた「部活動」を通して、一人ひとりが目標をもって活動に参加できるよう支援をおこなった。主な活動場所として地域の施設を使用し、地域住民等とも触れ合える機会を積極的に作ってきた。</p> <p>併せて、医療的ケアなどを必要とする子どもが安心して過ごせる施設として環境整備を行い、受け入れを行ってきた。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のための全国一斉休校措置期間(3月上旬から)においては安全に配慮しながら日中のサービスを提供し、各家庭と連絡を取りながら緊急時における個々に必要な支援を行った。</p>		
2. 事業の内容	(1) 個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 個別支援計画を作成し6か月毎にモニタリングのケア会議を開催した。		
	(2) 個別支援計画の作成 個別支援計画に沿った、放課後等デイサービスの提供をおこなった。		
	(3) その他の事業 送迎サービス、茜舎説明会、個別面談		
3. 職員数	管理者1名、児童発達支援管理責任者1名、児童指導員1名、指導員4名		
4. 利用者実績	1日平均9名(定員10名)		
5. 開設時間	月曜日～金曜日 午後2:30～午後6:30 土曜日、学校休業日 午前9:30～午後3:30 ※緊急時の対応として、365日24時間の体制を確保		
6. 活動/作業内容	<p>(1) 部活動 放課後の時間に(月)ダンス部、(火)クッキング部、(水)水泳部、(木)スポーツ部、(金)アートワーク部、(土)おたのしみクラブを実施した。それぞれ目標を持って活動に取り組んできたが、新型コロナウイルス感染拡大による影響のため、年度末の発表会等の機会をもつことができなかった。長期休暇に関しては特別プログラムを計画し、プールやデイキャンプなどの活動を提供した。</p> <p>(2) 医療的ケアが必要なお子さんの受け入れ 医療的ケアが必要なお子さんの活動の場所を広げられるよう、環境整備を行い、支援体制を整え、受け入れを進めてきた。今年度は医療的ケアが必要なお子さん4名を受け入れ、主治医やご家庭他、関係機関と連携のうえ、安全に活動ができるように支援を行ってきた。</p>		
7. 単年度事業等	なし		

事業報告書【令和元年度】			
事業所名	自立サポート森と木	サービスの種類	生活介護
1. 総括	<p>主に特別支援学校を卒業した知的障害のある方を対象に、様々な社会体験プログラムを提供した。利用者一人ひとりの習慣や思いに配慮をしながら、地域の店舗や公共施設を積極的に活用し、様々な学習活動を実施した。そのなかで、社会体験や成功体験を積み重ね、自己肯定感を高めていけるよう支援を行ってきた。</p> <p>チャレンジ企画では一人ひとりの目標を明確にし、それを意識することで、一層の達成感や充実感をもつことができるよう支援を行ってきた。</p> <p>また、利用者の希望や個別面談を通じ、移行支援を行い、3名が希望する施設へ移行をした。</p>		
2. 事業の内容	(1) 個別支援計画に沿った障害福祉サービス等の提供 自立訓練計画又は生活介護計画を作成し、それを基に定期的にモニタリングのためのケア会議を実施した。		
	(2) 個別支援計画の作成 生活介護計画を作成し、それを基に定期的にモニタリングのためのケア会議を開催した。		
	(3) その他の事業 健康診断 避難訓練 送迎サービス 職員会議 ケース会議等		
3. 職員数	管理者1名、サービス管理責任者1名、生活支援員10名、看護師1名、嘱託医1名		
4. 利用者実績	1日平均15名（定員20名）		
5. 開設時間	月曜日～土曜日 午前9:00～午後4:00		
6. 活動/作業内容	(1) 自立生活プログラム 公民館や図書館等の公共施設等や地域の店舗を活用しながら、身近な生活に関わる内容をテーマに社会学習に取り組んだ。また、チャレンジ企画前には事前学習を行い、企画への見通しを持ち、活動意欲を高めるプログラムに取り組んだ。		
	(2) 進路支援 利用者の希望や個別面談の内容に基づき、法人内外の生活介護事業所等の見学・実習を行った。3名の方が希望の事業所に移行することができた。		
	(3) チャレンジ企画 6月14日 森と木登山（飯縄山・瑠璃山・毛無山） 8月29日・30日 森と木キャンプ（長野市青少年錬成センター） 10月17日・18日 森と木ウォーク（長野→飯山）		
	(4) 作業活動 下請作業、製菓作業、花壇整備作業を実施した。		
	(5) アート活動 日々作られる作品から作品展や雑貨製作を行った。定期的な作品展の他に、外部で行う作品展示へも参加した。また、キノ前で行うアートイベントに地域の方にも参加してもらうことで繋がりを作ることができた。		
	(6) サークル活動 うた、スポーツ、陶芸などのサークル活動を行った。		
7. 単年度事業等	なし		